

資源管理基本方針別紙 2 第3の資源管理の目標及び第4の漁獲シナリオの詳細

特定水産資源	資源管理の目標		漁獲シナリオ		世界全体の漁獲可能量 (令和3管理年度) (漁獲シナリオに基づき算定)
	資源管理基本方針別紙2第3の資源管理の目標	具体的な値	資源管理基本方針別紙2第4の漁獲シナリオ	漁獲シナリオの詳細	
別紙2-22 にしくろかじき (大西洋条約海域)	ICCAT (大西洋まぐろ類保存国際委員会のことをいう。以下同じ。)での合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	32,097トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2028年までに資源量をBmsy (最大持続生産量を達成する資源量のことをいう。以下同じ。)以上に維持する確率を50%以上とする漁獲量	1,670トン
別紙2-23 にしまかじき 及びふうらいかじき (大西洋条約海域)	ICCATでの合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	11,409トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	資源量の回復を可能とする漁獲量	355トン
別紙2-24 びんなが (南大西洋海域)	ICCATでの合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	124,453トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	Fmsy(最大持続生産量を達成する漁獲圧力のことをいう。以下同じ。)を超えない漁獲圧力を達成する漁獲量	24,000トン
別紙2-25 めかじき (南大西洋海域)	ICCATでの合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	52,465トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2028年までに資源量をBmsy以上に維持する確率を50%以上とする漁獲量	14,000トン
別紙2-26 めかじき (北大西洋海域)	ICCATでの合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	82,640トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2028年までに資源量をBmsy以上に維持する確率を50%以上とする漁獲量	13,200トン
別紙2-27 めかじき (南西太平洋海域)	WCPFC (中西部太平洋まぐろ類委員会のことをいう。以下同じ。)での合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	17,740トン	WCPFCにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2000年から2006年までのいずれかの年における漁獲量以下の漁獲量 (一部の国等を除く)	※全体の漁獲可能量は設定されていない。
別紙2-28 めばち (大西洋条約海域)	ICCATでの合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	425,601トン	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2034年までに資源量をBmsy以上に維持する確率を50%以上とする漁獲量	61,500トン
別紙2-29 めばち (東部太平洋条約海域)	IATTC (全米熱帯まぐろ類委員会のことをいう。以下同じ。)での合意等に従い、最大持続生産量を達成するために必要な資源水準を維持できる値以上の値	—	IATTCにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	Fmsyを超えない漁獲圧力を達成する漁獲量	55,131トン
別紙2-30 よしきりざめ (北大西洋海域)	ICCATでの合意等に従い、資源の保全を確保できる資源水準の値	—	ICCATにおいて決定された漁獲可能量の算定方法を漁獲シナリオとする。	2011年から2015年までの期間における平均漁獲量以下の漁獲量	39,102トン